Ⅲ.俳句をよもう　テキストリスト

課題	番号	作品	作者	季語	季節	テーマ	備考
1	春一	春風や　闘志いだきて　丘に立つ	高浜虚子	春風	春	丘	
2	春二	近道を　出てうれし野の　つつじかな	与謝蕪村	つつじ	春	近道	
3	春三	梅が香に　のっと日の出る　山路哉	松尾芭蕉	梅	春	出る	
4	春四	裏店の　たんすの上の　ひな祭り	高井几董	ひな祭り	春	ひな祭り	
5	春五	傘ささぬ　人のゆききや　春の雨	永井荷風	春の雨	春	傘	
6	春六	島々に　灯をともしけり　春の海	正岡子規	春の海	春	島	
7	春七	凧　きのふの空の　有りどころ	与謝蕪村	凧	春	凧	
8	春八	春風や　象引いて行く　町の中	正岡子規	春風	春	象	
9	春九	暖かや　お化けが出たる　紙芝居	松藤夏山	暖か	春	おばけ	
10	春十	わらべらに　天かがやきて　花祭	飯田蛇笏	花祭	春	祭り	
11	春十一	ねころんで　書よむ人や　春の草	正岡子規	春の草	春	草	
12	春十二	両の手に　桃と桜や　草の餅	松尾芭蕉	桃・桜・草餅	春	桃	
13	春十三	遅き日の　つもりて遠き　昔かな	与謝蕪村	遅き日	春	昔	
14	春十四	山吹や　葉に花に葉に　花に葉に	炭大祇	山吹	春	葉	
15	春十五	なの花や　鯨のよらず　海くれぬ	与謝蕪村	なの花	春	くじら	
16	夏一	地球儀の　青き光りの　五月来ぬ	木下夕爾	五月	夏	地球	
17	夏二	青蛙　おのれもペンキ　ぬりたてか	芥川龍之介	青蛙	夏	ペンキ	
18	夏三	六月を　奇麗な風の　吹くことよ	正岡子規	六月	夏	きれい	
19	夏四	枝豆や　三寸飛んで　口に入る	正岡子規	枝豆	夏	豆	
20	夏五	夕風や　白薔薇の花　皆動く	正岡子規	薔薇	夏	バラ	
21	夏六	五月雨を　降り残してや　光堂	松尾芭蕉	五月雨	夏	光	
22	夏七	足元に　いつ来たりしよ　蝸牛	小林一茶	蝸牛	夏	かたつむり	
23	夏八	梅雨晴れや　蜩鳴くと　書く日記	正岡子規	梅雨晴れ	夏	日記	
24	夏九	やがて死ぬ　けしきは見えず　蝉の声	松尾芭蕉	蝉	夏	景色	
25	夏十	暑き日を　海に入れたり　最上川	松尾芭蕉	暑さ	夏	暑い	
26	夏十一	短夜や　幽霊消えて　鶏の声	正岡子規	短夜	夏	幽霊	
27	夏十二	涼風の　曲がりくねって　来たりけり	小林一茶	涼風	夏	曲がる	
28	夏十三	ひとでふみ　蟹とたはむる　磯遊び	杉田久女	蟹	夏	かに	
29	夏十四	夕立や　豆腐片手に　走る人	正岡子規	夕立	夏	豆腐	
30	夏十五	市中は　ものの匂いや　夏の月	野沢凡兆	夏の月	夏	におい	
31	秋一	いなびかり　北よりすれば　北を見る	橋本多佳子	いなびかり	秋	雷	
32	秋二	猪の　ともに吹かるる　野分かな	松尾芭蕉	野分	秋	台風	
33	秋三	船の名の　月に読まるる　港かな	日野草城	月	秋	船	
34	秋四	鳥啼いて　赤き木の実を　こぼしけり	正岡子規	木の実	秋	木の実	
35	秋五	青空に　指で字を書く　秋の暮	小林一茶	秋の暮	秋	青空	
36	秋六	栗を焼く　伊太利人や　道の傍	夏目漱石	栗	秋	栗	
37	秋七	黒きまで　紫深き　葡萄かな	正岡子規	葡萄	秋	ぶどう	
38	秋八	蓑虫の　父よと呼べば　かかし哉	横井也有	蓑虫	秋	父	
39	秋九	菊の香や　奈良には古き　仏たち	松尾芭蕉	菊	秋	古い	
40	秋十	君が手も　まじるなるべし　花すすき	向井去来	花すすき	秋	君	

課題	番号	作品	作者	季語	季節	テーマ	備考
41	秋十一	肩に来て　人懐かしや　赤蜻蛉	夏目漱石	蜻蛉	秋	とんぼ	
42	秋十二	みみたてて　うさぎもなにと　秋の暮	加賀千代女	秋の暮	秋	うさぎ	
43	秋十三	下駄箱の　奥になきけり　蟋蟀	正岡子規	蟋蟀	秋	下駄箱	
44	秋十四	秋風や　やりし子猫の　たより聞く	久保より江	秋風	秋	猫	
45	秋十五	引越して　隣はどこへ　ゆく秋ぞ	会津八一	行く秋	秋	引越し	
46	冬一	さらさらと　竹に音する　夜の雪	正岡子規	雪	冬	音	
47	冬二	葱白く　洗いたてたる　寒さかな	松尾芭蕉	葱	冬	葱	
48	冬三	流れ行く　大根の葉の　早さかな	高浜虚子	大根	冬	大根	
49	冬四	仏壇の　菓子美しき　冬至かな	正岡子規	冬至	冬	お菓子	
50	冬五	頬骨に　マスクのあとや　夜の客	原石鼎	マスク	冬	マスク	
51	冬六	焼き芋や　ばったり風の　落ちし月	久保田万太郎	焼き芋	冬	焼き芋	
52	冬七	一人来て　ストーブ焚くや　クリスマス	前田普羅	クリスマス	冬	ｸﾘｽﾏｽ	
53	冬八	去年今年　貫く棒の　如きもの	高浜虚子	去年今年	冬･新年	今年	
54	冬九	年玉を　並べて置くや　枕もと	正岡子規	お年玉	冬･新年	お年玉	
55	冬十	正月の　子どもになって　見たき哉	小林一茶	正月	冬･新年	正月	
56	冬十一	木枯らしや　鐘に小石を　吹きあてる	与謝蕪村	木枯らし	冬	石	
57	冬十二	手鞠唄　かなしきことを　うつくしく	高浜虚子	手鞠唄	冬	唄・歌	
58	冬十三	もろもろの　楽器音無く　冬籠る	正岡子規	冬籠る	冬	楽器	
59	冬十四	節分の　豆をだまって　食べている	尾崎放哉	節分	冬	節分	
60	冬十五	叱られて　目をつぶる猫　春隣	久保田万太郎	春隣	冬	目	

課題	番号	季語	備考
61	春～夏①	春から夏の季語 24 語	
62	春～夏②	春から夏の季語 24 語	
63	春～夏③	春から夏の季語 24 語	
64	夏～秋①	夏から秋の季語 24 語	
65	夏～秋②	夏から秋の季語 24 語	
66	夏～秋③	夏から秋の季語 24 語	
67	秋～冬①	秋から冬の季語 24 語	
68	秋～冬②	秋から冬の季語 24 語	
69	秋～冬③	秋から冬の季語 24 語	
70	暮・新年	暮・新年の季語 24 語	
71	冬～春①	冬から春の季語 24 語	
72	冬～春②	冬から春の季語 24 語	
73	冬～春③	冬から春の季語 24 語	